

# 認知症になっても、安心して暮らせるまちへ。今知ろう、認知症

年末年始に、普段は離れて暮らす家族と久しぶりに会う人も多いと思います。家族の様子が以前と違い、「もしかして認知症では」と思ったら、抱え込まず、まずはかかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談しましょう。

地域福祉課 ☎ 8516187

## 認知症について

脳の病気や障がいなどのさまざまな原因により、記憶力や判断力が衰え、日常生活に支障が出てくる状態をいいます。

**「もの忘れ」と「認知症の記憶障がい」は違います**

**もの忘れ**  
出来事の**一部**を忘れる

買い物 → 夕食 → テレビ

あなたの好物でしたよ

そうだ、肉じゃがを食べたんだ

ヒントがあれば**思い出せる**

**認知症**  
出来事の**全て**を忘れる

買い物 → [ ] → テレビ

買い物 → テレビ

食べていない!

ヒントがあっても**思い出せない**

**認知症の人が外に出て行ってしまうのはなぜ？**

認知症の人は、理由も目的もなくさまようのではありません。よくある理由の一つとして、今いる場所が自宅だと分からず、「家に帰りたい」と思って外に出て行ってしまうことがあります。

帰らなきゃ...

認知症になったら、何もかもが分からなくなるわけではありません。認知症の人の行動には、本人の思いや目的があります。なぜそのような行動をとるのか、本人に寄り添って話を聞きましょう。

**認知症になっても  
安心して暮らしていける  
優しいまちづくり**

認知症になった時、最も苦しく、不安なのは本人です。認知症の人が尊厳と希望を持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせることが大切です。認知症の人やその家族を地域で助け合える優しいまちにしましょう。

市では、認知症を知るきっかけとして、認知症サポーター養成講座を開催するほか、さまざまな取り組みを行っています。認知症について理解することが、「はじめの一歩」となります。

## 春日井出身の認知症医療の第一人者 精神科医・長谷川和夫



故 長谷川和夫氏

昭和4年に東春日井郡牛山村（現・牛山町）で生まれ、聖マリアンナ医科大学教授、同大学長、同理事長などを経て、認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長として活躍。自らの認知症を公表した後も、認知症の理解を広めるため、書籍・絵本の出版や各地での講演を行い、令和3年11月に亡くなりました。

### 主な功績

- 認知症の診断の物差しとなる「長谷川式認知症スケール(HDS-R)」を開発  
9つの質問項目で、30点満点中20点以下を認知症の疑いありとする検査方法で、現在もさまざまな病院で、認知症の診断に活用されている。
- 「痴呆」から「認知症」への名称変更に貢献
- 認知症ケアの考え方の一つである「パーソン・センタード・ケア(※)」の普及  
※その人らしさを尊重し、その人の立場に立ったケアのこと